

## 2013 自治労青年女性オキナワ平和の旅 事後レポート

単組 富良野市労連青年部

氏名 渡 邊 克 昌

### 【全体をとおして】

今回の学習を通じて学んだこと、新たに気づいたことは、①日本軍は住民を守らなかった（戦時中の教育と精神異常）、②戦争では死ぬこと以外に心の傷など戦後も様々な被害があること、③現在の政治情勢があきらかに戦争にむかっていることなどです。

しっかりと旅の内容を報告していくとともに、あらためて反戦・反核・平和闘争を仲間に広げていく必要性を感じました。

### 【集会一日目】

#### ○基調提起

沖縄をめぐる情勢と課題について提起があり、この集会が12月8日にこだわっているのは、日本が真珠湾攻撃を行い太平洋戦争が始まった日であること。軍による住民虐殺や集団自決の事実について学んでほしいと提起がされました。

また、米軍による少女暴行事件や飛行訓練事故の実態、教科書問題など歴史をゆがめる動きがあることなども報告されました。

参加者の任務は「全国に沖縄の現状や戦争の悲惨さを伝えること、広めること」とあったように、あらゆる青年女性の平和闘争に結集する決意を固めました。

#### ○講演Ⅰ 「侵略の歴史と自民党憲法改正草案」

九州・沖縄平和研究所 所長 中村元気

日本人の7割が戦後生まれとなり、戦争の意識が薄れている。政府が戦争の歴史をゆがめ、従軍慰安婦や麻生発言などの問題発言があってもかき消されていく。憲法改正草案や特定秘密保護法を学習し、政府の真のネライに気づいていこう。戦争体験をしていないからこそ、何度も現地に足を運び学習を繰り返そう。

戦争がないから平和だとはいえない。「平和の最大の敵は無関心であること」「戦争の最大の友は無関心であること」

- ・戦争はなぜ起こるのか

⇒経済と密接につながっている。経済的な侵略が主な目的

- ・戦後、戦争をしなかったことはすばらしい。なぜか

⇒二度と戦争はいけないという国民感情、教育の力、軍備より経済発展を優先、労働組合の存在（反対運動）

- ・戦争による影響は公務員が一番先に  
⇒教師は戦争を容認するよう教えていかなければならない  
⇒地方公務員は戦場に知り合いや友人を送り出す仕事がある
- ・教師の現状（組合つぶしの現状）  
⇒教員免許の更新が10年に1度となったことで、50代で辞める人や忙しさのあまり組合を辞める人が出始めている
- ・憲法改正の問題点（97条 基本的人権の記述が削除）  
⇒戦争拒否を基本的人権に基づいていえなくなる。

道本青年部の当面する闘争方針でも憲法改正草案の学習を提起していますが、なかなか広がっていません。「憲法＝むずかしい」「憲法が変わったって戦争になんてならない」といった“思い込み”からくるものだと思っています。今回の講演で学んだことをもとに自分なりに憲法改正のポイント解説をつくるなど考えてみたいと思います。

## ○講演Ⅱ 「今、問い直す、沖縄戦」

沖縄国際平和研究所 理事長 大田昌秀

沖縄の平和闘争を勝利するには政府と正面からぶつかってもだめ。少しずつ理解者を増やしていかなければならない。歴史教科書問題でいえば事実がゆがめられ、集団自決は住民自らが望んで行ったことなどとされている。軍は住民を守らないこと、集団自決は軍による教育によるものということを知ってほしい。

沖縄が日本に復帰して40年以上になるが、米軍基地が国内の70%以上もあるなど構造的差別を受けている。戦争のときも沖縄は日本本土の軍事態勢を整えるための「捨石」にされた。当時の日本政府は沖縄が玉砕することを知っていた。

戦争による心の傷が原因で精神異常をきたす人も多い。だから、いまだに沖縄戦は終結していない。このことは米軍兵も同じ。

武器を持った人が生き残るのか、武器を持たない人が生き残るのか。オオカミは牙を持っていたから人間に滅ぼされた。このことから、これから日本が進むべき道を考えてほしい。

## 【集会二日目】フィールドワーク

### ○ひめゆり資料館

死ぬのが当たり前、自決するのが当たり前と教育され、目の前で手りゅう弾を爆破させた学友の話などが印象に残っている。

アメリカ兵に壕から「出てこい」と言われても出ていかなかった。なぜか？捕虜になったら、非国民としてひどい目にあわされると教育されていた。自決しないで、出ていけば、助かった人も多かったのに。

戦争に勝ち負けはない。ただ多くの人が死んだだけ。生き残ったことが運が良かったと言えない。など、生々しい声。

### ○糸数壕（アブチラガマ）

ライトを消すと、目を開けても閉じてもなにも見えない。というより、暗闇が見える感じでした。こんなところで数ヶ月生活したり、病院としてやっていたのは考えられない。

壕のなかでは、けが人の腕や足をノコギリで切断、兵士の世話などをひめゆり学徒隊がしていた。兵士がケガをして、たたかえなくなったら、ゴミのような扱いにされていた。

一般住民は一番出口に近いところにいさせられ、外に出ていくことを監視されていた。壕から出ていかれると敵に見つかってしまうから。

### ○辺野古米軍基地周辺

辺野古移設反対の理由としては、財政問題・環境問題がある。

財政問題でいえば、埋め立て 1300 億円、建設 1000 億円、その他施設整備を含めると 3000 億円かかるのに対し、福島の復興予算は 500 億円。日本国民のための税金の使い道になっていない。

環境問題でいえば、世界で最北のジュゴン生息地であり、豊かな珊瑚礁があることで海も守られている。アカウミガメも生息している。こうした豊かな自然を壊すことは許せないし、基地ではなく観光として多くの客を呼び込める。

### ○嘉手納道の駅

嘉手納基地を道の駅二階広場から見学。時間が遅くなってしまったため戦闘機による飛行訓練（タッチ&ゴーなど）は見れなかったのが残念。防音壁とされる壁が建設されていたが、防音にはなっていないと感じた。単純に日本人から見られたくない、隠したいというふう感じた。

### ○嘉数高台

沖縄戦最大級の激戦地として紹介されたが、現在は街が整備され、よくある都市の街並み。そのような街中に普天間基地飛行場があり、大学施設への墜落事故などがあつたとい

うことで、常に危険がつきまとうところだと感じた。

## 【集会二日目】DVD鑑賞・フィールドワーク・総括会議

### ○軍隊がいた島

慶良間諸島での戦争体験証言

・集団自決を迫られ、家族を殺した。しかし周囲では自決しなかった家族もいた。後悔しか残っていない。

- ・校長先生が自分の妻をカミソリで殺し自決する姿を目の当たりにした。
- ・手りゅう弾の破片が今も体の中に残っている。うずく。痛い。
- ・朝鮮軍夫は自分が死んだあとに入る穴を掘らされ、そして殺された。
- ・投降を呼びかけた日本人は、スパイとされ日本兵に殺された。

一方で、日本軍のいなかった島では集団自決はしていないし、スパイとして殺された人もいなかったことから、いかに日本軍が軍事機密を守ることを理由として、住民を自決に追いやったのかがわかる。

### ○対馬丸記念館 見学

疎開船「対馬丸」は、戦時中に沖縄から九州に子どもたちを安全な場所へ避難させることを目的として運行。途中、アメリカ軍の魚雷により沈没。

多くの子ども達が犠牲になったこと、残された家族の悲しみ、生き残ったが「箝口令」により事件を話すことを禁じられた苦しみなどを学んだ。

対馬丸運行の本当の目的は、沖縄戦の食料を確保することや兵士として子どもを生かすことであった。

## ○総括会議 たたかいの報告

### ①沖縄県本部 沖縄県本部女性部長

自民党本部と政府が米軍普天間飛行場の辺野古移設を容認するよう、同党の県選出・出身国会議員や県連を恫喝し、自民党県連が米軍普天間飛行場の辺野古移設容認を表明した事実などを報告。

その他、オスプレイ配備の問題、米軍兵による沖縄での問題行動などについて報告。

### ②福島の現状 福島県本部青年部事務局長 中村洋介

福島県では人口が76,000人減少し、家族と離れ離れになっている仲間や除染業務に追われる仲間の存在を報告。福島の状態を福島に住む人々が異常だと思えなくなっている。

### ③「第2次侵略を心に刻み語り継ぐ平和の旅」 新潟県本部青年部副部長 樋口正紀

広島や長崎の原爆を知っているのに、日本は戦争の被害者だとおもっていたが、中国の南京大虐殺の実態を学ぶことで加害者でもあることがわかった。

旅のなかでは経済学入門による学習により、「今の日本は戦争にむかっているのではないか」といった不安も。

## ○全体集約

松澤女性部長総括

- ・美しい海が本来の沖縄の姿だが、平和について考え直すためにも家族でもう一度来てほしい
- ・各県本部でしっかりと学ぶ体制をつくって、20～30人の団体に学習してほしい  
(大人数だと学習時間が限られてしまう)
- ・平和の旅で知ったことを仲間に伝えてほしい。各種学習DVDが本部にもあるので活用してほしい。